東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2008 年 11 月 28 日

信者が互いに対し持っている権利

親愛なるムスリムの皆様。イスラームは、被造物の中で最も誉れ高い存在である人間に、大きな重要性をおいています。そしてそれに応じた責任をも与えておられるのです。その責任の一つが、ムスリムの兄弟に対する私たちのつとめです。預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）はある聖ハディースで、次のように仰せられています。「ムスリムは、ムスリムに対し五つのするべきことを持つ。それらは、挨拶すること、病気になれば見舞うこと、葬儀の礼拝に参加すること、招待を受けること、そしてくしゃみをした時に『ヤルハムケッラー』ということである」また別のハディースでは、「あなた方のうち、自分のために好み、求めるものをその兄弟のためにも求めない人は、真に信仰を持ったとはいえない」とおっしゃられています。

親愛なるムスリムの皆様。集団で生きる人間にとって、相互理解、相互援助、支えあい、そして分かち合いは基本であるべきです。崇高な教えイスラームは、ムスリムが一体化、助け合い、分かち合いを実現することができるよう、信者たちは兄弟であると宣言しています。アッラーもクルアーンで、「信者たちは兄弟である。だからあなたがたは兄弟の間の融和を図り、アッラーを畏れなさい。必ずあなたがたは慈悲にあずかるのである。」（部屋章第１０節）と命じておられます。預言者ムハンマドの、兄弟愛や親友との結びつきに害を及ぼす行動についての警告は非常に意味深いものです。「互いを妬んではいけない。互いに対し不機嫌であってはいけない。顔を背けあってはいけない。完了しようとしている商取引を妨げてはいけない。アッラーのしもべたちよ！あなた方は兄弟となりなさい。ムスリムはムスリムの兄弟である。彼を苦しめてはいけない。彼を助けることなく放置したり、蔑視したりしてはいけない。」

親愛なるムスリムの皆様。これらにおいて見られるように、共に生き、生活や地域、職場、モスクを共有している宗教上の兄弟たちに対する私たちのつとめは、イスラームが注意深く取り扱っている一つの事柄なのです。従って、預言者ムハンマドが仰せられたように、自分たちのために求めることを兄弟たちのためにも求めなければならないのです。だから全てのムスリムに対し笑顔で、優しい言葉を持って接するべきなのです。よいことをし、接待し、挨拶するべきなのです。喜びや悲しみを分かち合わなければなりません。さらに周囲の人々に悲しみや苦しみを与えるような行動は極力さけるべきです。一人の人間として、宗教上の兄弟たちに対し不足があったり不正を働いていたりしたのであれば、それを償い許しを求めるべきです。

今日のホトバを、あるハディースで締めくくります。「誰かが、宗教上の兄弟たちに対し精神的もしくは財産に関して償うべき状態にあるなら、金銀がもはや通用しない審判の日が来る前に許しを求めなさい。そうでなければ、その不正の度合いに応じて彼の善行が減らされ、それが償うべきであった相手に与えられる。善行がなければ、その相手の罪が減らされ、自分に与えられる。」